

# 新会長に深松努氏就任

## 18年度総会で承認 仙建協

仙台建設業協会の会長に、深松努氏（深松組代表



深松努新会長

取締役社長（仙台市）が就任することに決まった。10日に仙台市の江陽グラウンドホテルで開いた18年度総会の役員改選で選出され、承認を受けた。

深松会長は、1965年3月3日生まれ。富山県出身。87年に日本大学理工学部土木工学科卒業後、前田

建設工業入社。92年に深松組入社後、2006年に代表取締役副社長、08年に代表取締役社長に就任した。

協会活動としては、04年に仙台建設業青年会会長、06年に宮城県建設業青年会会長、同年に東北建設業青年会会長などを歴任。仙建協では10年から副会長を務めてきた。このほか、17年の杜の都建設協同組合発足時に副理事長に就任している。

# 仙建協 30年度定時総会

仙台建設業協会は10日、仙  
台市青葉区の江陽グラウンドホ  
テルで30年度定時総会を開い  
た。役員改選では、22年から4  
期8年会長を務めた河合正広  
氏に代わり、深松努氏(深松  
組・代表取締役社長)の新会長  
就任が決定した。新体制で大  
災害時の支援を目的とした政  
令指定都市協会との災害援助  
協定締結などを推進していく。

総会では2件の報告と3件  
の議案を審議し、満場一致で  
承認。新正副会長は理事と監  
事の選出後、互選された。こ  
れまで副会長を4期8年務め  
た深松氏が新会長、船山克也

氏(阿部和工務店・代表取締  
役)、後藤栄一氏(後藤工業・  
代表取締役)の2人が新副会  
長に就任する。  
深松氏は就任あいさつで、  
復興完了後の事業量減少など

## ◆新会長に深松氏が就任◆

課題解決へ注力を誓うと共に  
「われわれは大震災の惨状を



深松新会長

経験した。今度は助けに行く  
番だ。南海トラフ地震を想定  
して平常時の今、政令指定都  
市の協会同士で災害援助協定  
を結びたい」と本年度の取り  
組みに力を込めた。

また大震災発災の1年前か

災を振り返り「当時は皆さん  
に体力・知力・人脈を駆使して  
とことんやっていた。その  
姿を見て私も8年間務める  
ことができた」とこれまでの  
支援に謝辞。今後も常任理事  
として運営を盛り上げていく。

「災害廃棄物の処理等の協力  
に関する協定」は、市と建設  
産廃・解体の3団体が連携す  
る全国でも珍しい取り組み。  
他地域への啓発と共に、これ  
ら5つの協定も踏まえ協会が  
地域社会に果たしている役割  
を総合評価制度の中に一層位  
置づけるよう行政側に要望し  
ていく考えだ。

ら会長職を務め、今春に褒章  
受賞が決まった河合氏に対し  
「大震災の対応、仙台市との  
5つの協定締結、杜の都建設  
協同組合の設立など、その貢  
献は多大だ」と感謝を伝えた。  
退任に当たり河合氏は大震

仙建協の30年度の事業計画  
には▽復旧・復興への貢献活  
動▽会員企業の技術向上およ  
び経営改善の推進▽労働災害  
防止および雇用改善推進▽環  
境・福祉に関する事業▽建設  
業の社会的使命に関する事業

された。  
総会では、仙台市都市整備  
局の八木裕一次長による「仙  
台市が目指すこれからのまち  
づくり」と題した講演も行わ  
れた。

仙建協は総会終了後、同じ会場で懇親会を開催した。会員企業や来賓など約140人が参加した。仙建協の新たなキャッチコピーを発表した。



# 新キャッチコピーを発表

「未来へつなく 杜の都のまちづくり」が決まったこと

発表した。仙建協の新たなキャッチコピーを発表した。

来賓では仙台市の郡和子市長、高橋新悦副市長、県建設業協会の千葉嘉春会長、仙台市建設公

社の菊地正宏理事長、県測量設計業協会仙台支部の遠藤善則支部長、県建築士事務所協会の栗原憲昭会長らが駆け付けた。

郡市長は「常日頃から仙台のまちづくり、そして都市基盤の整備に尽力し、身近な町医者の役割を果たしていただいたい

と仙建協の活動に感謝を表明。仙台での復興事業は終息しつつあるとしながらも、「いま仙台が抱えているさまざまな公共施設の長寿命化、建て替えが動いている」と話し、「業界の皆さんのお力はこれからもなお一層必要」とさらなる力添えを求めた。

キャッチコピーを囲んで記念撮影する  
深松会長（中央）と表彰受賞者



郡仙台市長

懇親会では、赤間次彦仙台市議会議員の音頭で皆が乾杯した後、仙建協の新キャッチコピーが披露された。これは9月に仙建協が創立30周年を迎えることを記念し、公募で集まった89点の中から選定した。

キャッチコピーの採用作品を考案した橋本店建築部主任の伊藤裕太さんと、佳作品3点の応募者3人に対しては、深松会長からそれぞれ表彰状が手渡された。

## 仙建協が懇親会 仙台発展へ交流深める

# 新会長に深松努氏(深松組社社長)

## 経営改善を推進

仙建協

仙台建設業協会(河合正広会長)は10日、仙台市の江陽グランドホテルで18年度通常総会を開いた。任期満了に伴う役員改選では、新会長に深松努氏(深松組社長)を選任するとともに、協会創立30年の節目を迎え、復旧・復興への貢献、技術向上、経営改善の推進などを盛り込んだ今年度事業計画を承認した。

あいさつした河合会長は「仙台市と災害廃棄物

等に関する協定を締結するなど5つの災害対応関連の協定を締結し、地域のまちづくりや災害対応に不可欠な標準装備となっている一方で、仙台市



深松新会長

の普通建設事業費の減少により、大変厳しい経営環境を迎えることとなる。健全な経営を確保できる環境整備を要望していくとともに働き方改革等の施策に対応し続けることが重要」と述べた。

議事では▽復旧・復興への貢献活動▽会員企業の技術の向上および経営改善の推進▽労働災害の防止・雇用改善の推進▽環境・福祉▽建設業の社会的使命などを重点項目に事業計画を推進。仙台市と締結した「災害廃棄物の処理等の協力に関する協定」の発信、建設工事の継続的拡大と確保対

策、改正品確法に伴う入札契約制度の内容整備を促進するとともに働き方改革・雇用改善・人材育成対策、高校生の現場実習や進路ガイダンスの支援事業などを盛り込んだ。

また役員改選では、深松会長のほか、副会長に船山克也平氏(阿部和工務店社長)、後藤栄一氏(後藤工業社長)の新任を決め、新執行部を承認した。深松会長は、「東日本大震災の貴重な経験・教訓により、他の都市には無い災害対応能力を備えた仙台市になっている。働き方改革や担い手の確保などの課題とともに、

事業量を確保しながら、書類の簡素化や総合評価の見直しについても良い環境づくりを働きかけていきたい。全国各地で自然災害が発生しているなか、政令指定都市の建設協会同士の民・民間での災害援助協定の締結を検討していく。それが東日本大震災を経験した我々の恩返しだ」と決意を語った。

なお、創立30周年を記念して公募した協会の新たなキャッチコピーには、橋本店建築部主任の伊藤裕太さんの「未来へつなぐ杜の都まちづくり」が採用され、披露された。

仙台建設業協会

# 新会長に深松氏

## 新キヤッチコピー選定

仙台建設業協会（河合正広会長）は10日、仙台市内の江陽グラウンドホテルで2018年度定時総会を開き、任期満了に伴う役員改選で新会長に

菅を保ち地域の守り手として活躍できるよう、引き続き各発注関係機関に働き掛けていきたい」と語った。

議事では、17年度事業・収

深松努氏（深松組社長）を選任した。また、創立30周年を迎える同協会の新キヤッチコ

支決算を報告した後、▽創立30周年記念誌の発刊▽会員企業の技術向上、経営改善推進▽発注関係機関に対する要望

橋本店建築部主任の「未来へつなぐ 杜の都のまちづくり」を選んだことを報告した。

冒頭、あいさつに立った河

合会長は「東日本大震災からの復興後の地元建設業界の経営環境は厳しくなると予想されるが、会員企業が健全な経

営を保ち地域の守り手として活躍できるよう、引き続き各発注関係機関に働き掛けてい

活動▽地域福祉事業支援▽高校生への現場実習や進路ガイダンスの支援――などを盛り込んだ18年度事業計画を承認した。

役員改選では、深松新会長のほか、副会長に船山克也（阿部和工務店社長）、後藤栄一（後藤工業社長）の両氏を新任した。

深松新会長は「働き方改革や担い手確保に取り組んでいくためにも、仕事量の確保や総合評価制度の見直しなどを発注機関に働き掛けていく。

今後予測される他地域での大規模地震の発生に備え、政令指定都市の各建設業協会との災害協定の締結に向けた取り組みにも着手していきたい」と就任の抱負を語った。写真。

